

**「21世紀COEプログラム」(平成14年度採択) 中間評価結果表**

機 関 名	早稲田大学	拠点番号	E 2 3
申請分野	学際・複合・新領域		
拠点のプログラム名称 (英訳名)	現代アジア学の創生 Creation of New Contemporary Asian Studies		
研究分野及びキーワード	<研究分野: 地域研究>( 現代アジア )( 中国 )( 東南アジア )( 国際関係 )( 地域協力)		
専攻等名	政治学研究科政治学専攻国際関係・比較政治、アジア太平洋研究科国際関係学専攻、社会科学部地球社会論専攻、経済学研究科理論経済学・経済史専攻・応用経済学専攻、比較法研究所、現代政治経済研究所、現代中国総合研究所		
事業推進担当者	(拠点リーダー) 毛里 和子 教授 他 20名		

**拠点形成の目的、必要性・重要性等：大学からの報告書（平成16年1月現在）を抜粋**

<p>&lt;本拠点がカバーする学問分野について&gt; 中国・韓国・日本を中心とする東アジアと東南アジア諸国を加えた広域的な地域として「アジア」を研究対象地域とし、時代は現代とする。学問的方法としては、政治学・経済学・国際関係学・文化人類学等の社会科学を「アジア学際学」、「アジア比較学」、「アジア・コミュニティ研究」の三つの学問方法に統合して、研究対象地域の現在の問題点を分析・解明する。</p>
<p>&lt;本拠点の特色及びその目的等&gt; 本拠点は「アジア」の現代的問題に対し明快な解答を与える研究教育拠点を目指す。理論面では「現代アジア学」というパラダイムを創造し、アジア発の社会科学の研究成果を発信する。教育面では、「現代アジア学」を担う日本人を含めてアジア地域の若手研究者の人材養成を積極的に行う。国際交流面では、アジア諸国の研究機関だけでなく欧米主要大学を始め世界中の研究教育機関とネットワークを持ち、多文化主義に基づく教育・研究のアジア規模のハブ機能を果たす。</p>
<p>&lt;COEを目指すユニーク性&gt; 我々はオーソドックスな研究教育機関を目指しているが、ユニークさも否定しない。本拠点は「研究」、「教育」、「国際交流」の三分野で、世界の一流の研究教育機関に比肩する拠点を目指している。本拠点の担当者の多くが欧米の一流研究機関でPh.D.を取得して、欧米のCOEを熟知している。250以上の姉妹校を世界に持つ本学は、世界に広がる知的なネットワークを構築している。これらの利点を活かし、「アジアの視点に立つ発信」を世界に行い、首都東京に存在する現代アジアの研究教育拠点として活動していく。</p>
<p>&lt;本拠点のCOEとしての重要性・発展性&gt; 現在、グローバル化が進展するに伴い、地域としてのアジアが自己のアイデンティティを確立するために「アジア化」が起こっており、時代に適合した「新アジア学」が求められている。その要請に応えるのは、運営上より柔軟性をもち、国際交流にもより融通性のある私立大学が優位性をもっている。数多くの優秀なアジアの留学生の存在、日本人の優秀な研究者の結集、国際的なネットワークの確立は、「アジアの内部からの視点」で研究成果を発信することが可能である。</p>
<p>&lt;本プログラムの事業終了後に期待される研究・教育の成果&gt; COE終了後に、「早稲田大学大学院現代アジア学研究院」の設立を目指す。第3年度の平成16年度から「現代アジア学講座」が開設される。この講座を発展させ、3年後に「現代アジア学研究院」を開設する予定である。この研究院は、教育面では日本人若手研究者の育成だけでなく、アジア各地からの優秀な研究者の養成、ひいては欧米を中心とする世界各地のアジア研究者の養成に取り組む。「現代アジア学」を専攻するアジアの研究者のネットワークを構築する。</p>
<p>&lt;背景となる当該研究分野の国内外の現状と動向、期待される研究成果と学術的・社会的意義、波及効果等&gt; シンガポール大学アジア研究所が著名な豪州人のA・リード教授を所長に迎えて2003年に開設されたように、タイ、中国、韓国等でも現代アジア研究の拠点が開設されている。日本でも国立民族学博物館地域研究企画交流センターを中心に地域研究コンソーシアムを構築する動きがある。このような動きに連動して、東京に位置する本拠点は、既にこの2年間の活動で、「現代アジア学」を柔らかに統合する研究教育機関の必要性を社会に訴えてきていて、多くの人々から賛同をえている。</p>

機 関 名	早稲田大学	拠点番号	E 2 3
拠点のプログラム名称	現代アジア学の創生		

#### 21世紀COEプログラム委員会における評価

##### (総括評価)

このままでは当初目的を達成することは難しいと思われるので、下記のコメントに留意し、当初計画の適切なる変更が必要であると判断される。

##### (コメント)

社会科学を中心に広域的地域としてのアジアの現代を取り上げ、その研究教育拠点を形成することは、緊急かつ重要な課題の一つである。本計画は、当該地域から多くの留学生を迎え入れている早稲田大学に関して、その目的のために採用したものであるが、拠点のプログラム名称である「現代アジア学」とは何か、いかなる「現代アジア学」を目指すのかが、未だに明白ではなく、どのような柱を立ててそれを構築するのかも、全く見えてきていない。

したがって、当初計画を練り直し、焦点を明確に絞ったうえで、拠点形成を進めることが肝要であり、そのことによって、期間内における具体的な成果の挙がることを強く期待する。